

琉球大学学術リポジトリ

経典補註

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: -, 2021/9/8 16:08 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/49007 |

經典
補註

常四時周復始循環不窮乃天道之流行不易之常理

陽有覆萬物之功剛之正直

遂乘金德生之十

循ハシタガフ 環ハメニル 九序也 四時ナリ

健ハスコヤカナリ陽ニ屬ス

仁禮陽トシ健トス

乾陽天

健 元 春 木 仁 肝 酸 父子

亨 復 火 禮 心 苦 長幼

常四象 四德 流行 不易

利 秋 金 義 肺 辛 君臣

貞 冬 水 智 腎 鹹 夫婦

坤地母 陰

順 陰有發生載萬物之功柔順

利貞遂乘土德成就

順ハシタガフ也陰ニ屬ス 義智陰順トス

欽撰

天文地理は天の伏儀は河國を出て曆易水波はよく
帝之愛之差有之と云其源一也所謂曆は是性命に
理小治ハ國人を安下政と帝を以ては至要也故小黃帝
河國を以て天文と稱し歲時を遷移考ハ小原と號して
文王と紀ハ日と印ハ月と別て晦朔日月と測曆始て制
帝舜猶攝衡と云ハ七政と齊一曆と治ハ民を教ハ
必兼世にハシテ治人ハ用集事と備て紀を去ハ漢ハ
歳より改ると云と聖人ハ曆を立理ハ少ナリト云真首と

奈て終事此曆其初色中中を理と辨つる故地理小は差
蓋天文地理と活るなり故小美園此地形重程る之
天地一理中で差感亦平西海小流時所陽小云て明
朝小儒亦見て天文地理と明容白後各古通中で
一中中小張衡獨理小道一之中也中亦考小天
渾圓中で自然小陰陽云行と具小其氣の程小
動小之小沿て天月小壳滿一重之止て地之凝る氣小
抱て中央小居是是形生の活也以理小由て形小
物と地と精氣とて天とを營火形を陽精也

水の形を陰の精氣也為物也且小均一也小於て
初の層一天地陰陽相別也之中一の也云
天小日月衆生以形有故何人皆曰實小形也小亦火
白是炁炁光也火は精也故小星と亦月是
虹形は水精也故小冷也成を氣生也小同一
亦の日月衆星何小由て常小運移也也曰陽は氣
動之也亦止事也精也亦止事也成
曰同移也美物變化也亦地小野也亦合亦有
且河海有其故亦曰陰の家精也也

造りて射る陽精と濁りて出不凝終不渾して地生る
言低造の多少渾濁ることの遲速小由る是と人射て
之の造別射潤と血なり古砂は皮肉也金石髓膏
象也毛髮なり常小陰陽は二氣と飲食共射と
養ふ潤渥と流水は溪澗川河は經と通て江海に
陽小入る是二便の道也なり人倫色は皮肉骨
生る物也のこゝ亦天地一体は理あり其神は
何處ぞ也曰天地則宮也陰陽とて体は成陰陽と
育養陰陽とて魂魄とあり是自然の理なり
張公陰の形なる形と陽の形なる形と火小潤
火の形小潤而養生に交とつて心火と成る天極是
陰陽善化は極と包名て天極善渾化て其既判
小及二義とて是曰家小形り五行とて小本
善物とて小生階級施事消長の道人莫測也
乾道は男成坤道は女成二氣交感善物は生る射別
是は合視海の等す百年と善小とて齊とてはる
成化元年癸未臘月中和日

五倫の義

父子有親

父子は同じ父を慕ひ子を守りて親しむなり

天に所立^{ナル}人の事と云ふ分けて子倫と云ふ其亦各其教を附て
子教とも云かり其間父子と生るるは天地の萬物と生るる
道理を出て父子は倫を定むる也親其教と云て亦慈と云
ふ亦孝と云ふ父と云ふ母と云ふ角小らるるなるは父子母
たるより子と云ふ是と云ふは必敬戒し居る若し自ら此也
備てて子と云ふ親小臨しむしつは是會歡の子と云ふ日の中
極の事なりは子と云ふるを我命持貴し於父母勤と云ふ及

教む力に悞て父母は志小不肖候少と爲し汝にこれい欲れ
孝にこれ候其給問要と云ふ父子同氣一肉の志をこれ
一系も改む隔なく充角小自愛の親とて不夫と云ふ言を
爲し汝も改む聖人父子同氣と云ふ言を一家と不此
法に定む所相父母に親と云ふ言一自に承く父母の
教をこれ爲し。父子同氣天性よりつけ合ふる親といはれ
陳の用いしとこれとて止まる處との道あり。教及も穢濁と
不と云て陳しをさひり父母は道と陳し成徳と云ふ
道に候候小己の頑名と悞トウとて言を和けて陳しを

若し出入る時おも其の小違ふと云く教に記し奉と記す
父母の小感候は穢濁よけと又陳る也一目少いれいそ
替へ不陳罪と御里小清く候ふと云ふ不孝中一なり神人なる
いそし陳て道と改む候ふと云ふ孝子は道を行孝子は二此
道と奉け一そび言を此と云ふ父母は忘る不義此禮の
言行わんこ上と悞し行跡小非義の治チのまことと云ふ孝の免
り候父母は道と守むことと云ふ深きと悞ることと云ふ治玉の
三行と云ふ。親小事する云人の不孝なるの端めり悞り
わらふ人と悞む候と云ふ若長色小不敬一處のよと云ふあり

下を以て人の位を以てし、股肱者人分と一度のむはたさるる
とて、夫れは礼儀のありざるを、臨死するの二は、人
人君子たるに、除くべきを、親より交朋する遠體と保じ、
りて、亡利共の言は、災禍は、終ふ父母は、終らば、終らば、
大宋は、懐懐とて、父母は、口體とて、衣とて、終らば、
子あり。○天地は、性之の理也、天地は、あつて、理とて、人、
生ずる時、生ずる人、黄とて、あり、人、黄とて、
又人の行ひの中、中て、善、道より、黄とて、あり、父、
は、道とて、終らば、故天子とて、云、天子とて、云、
天地は、善とて、

道とて、亦、外、外、事、考、道、に、外、あり、
は、く、あり、時、日月、星、は、光、とて、
光、あり、也、と、光、金、とて、或、日、
有、子、類、或、彗、星、客、星、は、
四、時、の、氣、候、平、に、
大、風、洪、水、は、災、ひ、あり、
君、臣、有、義、

君臣同若君と使た禮と評信君に事々に感と評しを義なり

君臣不は道運夫の正に信、地の中位は、
と、夫れ、分、あり、也、人、道、は、
と、夫れ、分、あり、也、人、道、は、

其教を以て君の仁に比し人臣の忠を以て我の仁に比し人臣の
憐れむ事ありと一國の爲也と云ふは君の仁に比して私心なく
當く下と利重なるを云ふなり又臣の恩を以て自然の功を以て
云ふは仁の美實也君の仁に比して故ある事云ふ表裏ありと云ふ
但其在國要と云ふ君臣の事云義と云ふ言と云ふ義と云ふ道理の
此天と云ふ君は曲尺を以て使はるゝと其威統に任せて
以て之敗る處を以て臣は以て其君の事云ふ己は忠は
よりて以て之を以て臣の故に聖人君臣の別を以て義と云ふ
不易之法と云ふは所習君臣の義ありと云ふ一句は君臣の

控する處あり。○臣の君に忠を以て事と云ふ道を守り君の事
後以て君に不義の徒に非ざる義ありと云ふ二條也と云ふ
臣の忠の心は逃が去て事ありと云ふ事あり又忠を以て己の志を
守りて忠を以て事と云ふ臣の君に命令成東と云ふ事也
御事と君に主理ありと云ふ事あり其の忠は其の事あり上條
臣の事と君の事ありと云ふ事あり家國天下と云ふ事あり
人君の天地鬼神万物に比して事あり忠道ありと云ふ事あり
大なりと云ふ天道は空の順中と云ふ事あり山川日月と云ふ事あり
神に其位と云ふ事あり是天地位事ありと云ふ事あり

悉其德小者以共化之立て其性不違是為物有焉
なり各其所以能得法して地道安寧ありなり

夫婦有別

夫婦之間は若定偶なりて是礼

夫不淫湯のむく人小夫婦の至陰陽和合して為物と生育は
夫婦和合して子孫と生育は夫人の理なりて婦不陰陽の
倡淫を陽の先なりて陰の倡以陰流して陽流して是
自然の性也主理なりて夫婦の倫と定むるなり是に剛
心と法と中と徳と常小婦の倡以候こと常小婦
らりてくは婦貞靜なり一節小靜あり徳と常小婦

聊寵也小濟事ありて厚くは但共管要といふ夫婦和合
睦は日常女は若別ありて中言なり候。男の外は治の
女の内は治の男の内なるの遊して正女義向の事なりて
尚外は若別礼なりては物を候小聖人夫婦の間小禮は
別の一字と易易は法と定り候所治夫婦小別なりと云一向に
承て夫婦の授き方なり。有別は礼偏と何れ配對也合也
正也偶並也合也對也夫婦のそれく小定て礼は別と別と云
有別と夫婦の間は親は易易故小常小なりて是を依りて
別と云又更なる云は神て義有各有分別是別と云なり

長幼有序

長幼の間格、長幼の次序あり又義

父母の事をして子とせしめれば、是も生ずるに由りて道なきものと知ま
是亦之を同事あるべし、是亦同く父母は是體とてこれ
大にありの是也、是よりて長幼の倫とて立て、是亦之を同く
是亦同く也、道なき思ふ父母亦て後、父母は是兒をも是を以
兄弟あり、亦亦形影の親とせざるべし、此の如くして、事成れば
少長あり、位に尊卑あり、是亦之を倫とて立て、生ずる
天人定する、次序あり、故に是亦之を倫とて立て、是亦之を
あり、是亦之を同格の是也、是亦て家督とて傳ふるべし、此の如
少長あり、是亦之を同格の是也、是亦て家督とて傳ふるべし、此の如
倫とて立て、是亦之を同格の是也、是亦て家督とて傳ふるべし、此の如
一白、亦く長幼の倫とて立て、是亦之を同格の是也、是亦て家督と
君臣不洽、天地不事、是道と折れ、是亦之を同格の是也、是亦て家督
順ふべし、是亦之を同格の是也、是亦て家督とて傳ふるべし、此の如

朋友有信

朋友の間、敬信ありて又信

素以、同く天地以、氣とて生ずれば、相友あり、是亦之を同格の
是亦之を同格の是也、是亦て家督とて傳ふるべし、此の如

仁に己を行ひ小私を事あり仁と稱ふこと修す事あり
 朋友の相輔ふより仁を成し事業を成るより以て優位
 ありことと事小善とほこと業を成るより事あり人又このこと
 あり小交の道は益友と一乘船ありゆる人又訪ふ事
 あり小交と換友をばいと益友と求む換友と意は歡友
 陸戦より艦船より事と成る一伴共善をといふ朋友は稱ふ
 物とひかき一事を頼りしものれ中一貞信あり相輔あると
 不意事あるは故小聖人朋友の間ふ於て信の一字を易に
 法と定むる所物朋友の信ありと云一自亦朋友の換る所

友の其友と忠也忠は忠といふ事小仁と稱ふは以て若し不義
 せらるる時に其人の義と云て若し陳て若くは道びん也忠は
 まことありまめやと後心の義と云をといふ親と和げ懇小
 義理といひて陳しといふ事ある時に其分あり止む事あり
 陳の時中中忠あり辱めありとあり。衆人同業と云ふ
 人小業事と傳ふんと事ある時に其あり其あり其業を和む
 兵と軍器也なり小創小あり死ありとあり。衆人同業の
 友小交ふ和順の心と事一なり事と上りある事と下りあり

中家 元の色に傳てて天と統かり 乾は徳元と事不確也 則人の首是也 且は運動則 事愈は愈なりと胸膈 貞は則元氣は初るなり

元

亨

利

貞

四時

春

夏

秋

冬

貞北小屬也
凡十一十二因

五事

一曰貌得水土也既生則聲音食て水言故

二曰言既揚火也言能く視る故

三曰親教也既視て後聽く故

四曰聽收也思去原て心通て曰去故

五曰思猶也曰思小辨也

貌曰恭貌我者之恭齊莊中正有貌即有恭之德

言曰從言有夢之從慎理成章有言即有從之德

履之德云明未施て神有德也。聽之德云聽物未感て虛去躬同

思之德云齊凡恭從明徳之徳也

以五事之序也此小有物必有別故。其成淑以五事之徳之有徳必有用

生物之始一也此於之の初の位なりて、是も同くはる

曰時小於之、是も是人の性小於之、仁也是是衆英は長なり

生物之通一也此於之の初の位なり、曰時小於之、是も

人の性小於之、禮也是是衆英は合なり

生物之遊一也此於之の初の位なり、曰時小於之、秋也

人の性小於之、義也是是合はれ和と成るなり

生物之成一也此於之の初の位なり、曰時小於之、冬也

人の性小於之、智也是是衆事は幹とありなり

貞北小屬也
凡十一十二因

○水と仁と云は別也此理也

○水と水と云其形実

○火と禮と云は別也此理也

○火と火と云其體形著

五行

○土と信と云は別也此理也

○土と土と云其質最

○金と義と云は別也此理也

○金と金と云其體固

○水と智と云は別也此理也

○水と水と云其體最微

○仁は愛と理なり

○水火は氣有り云と生可

○義は宜と理なり

○草木は生有り云と和可

五常

○禮は敬と理なり

○禽獸は和有り云と義可

○智は別と理なり

○人鳥は生有り智有り故也

○信は実有り理也

○天下此類一と云

五常要義

人性綱

善仁義禮智は五行の徳と云ふは生稟亦此天理命
の善なるを不迷之は此の善なるを正して可なり此
は小徳と云ふは徳の綱なりト信と云ふは徳の綱
ありは徳を正して可なり此は小徳と云ふは徳の綱

仁

澄和慈愛別也此理なり其義は別也

慈ありて心小なり云云

○天小元亨利貞と云は四季にのみ分て此徳は徳と云

○天に具する道理と云其道理人具する仁義禮智

○ある其内仁は天小有て云小なり元は徳は徳と云

○教生する道理なり教生は物と云ふは生は出づ云其

○道理と人と交て仁と云は故小澄和慈愛と云は氣の

○澄和あることなり人痛憐むるは人なり是仁なり

其心懐かく教と知りまらざる本石小し一海と仁の
心は潤して人となり物と傷み常小道理小感して心
思覺するんらると仁と云へし。○溫和也柔也物やわら
かるて溫和と云うんく一こみむと慈愛と云ふ其不遠
惻隱之心仁と爲也。○惻隱之心非人也。○惻隱と云ふは
よむ惻傷の功なり。○隱痛の深也。○心小生は可む
天地は性なり。○理也。○天地にあつては理と云ふ人東漢生
時生るる物なり。○小は理と云ふて生るるより人其氣と云ふ
備へ生る人より養と云ふる人其物れ中の空りて

養あり又人の行ひの中にて孝道と云ふる養と云ふは可
又人具足する所の心は金徳命にて仁義禮智と云ふ
仁の一分はふりあり仁と云ふるは并電の親小と云ふは
孝道は才一系物と云ふは道也。○又天地は生成する氣
形と云ふは理と云ふ也。○賦性なり。○人を行はるるは
中間生る也。○天地は功なり。○人なり。○これ成就せざるは
二天地と云ふて其化育と云ふは故小天地は二少と云ふ
險は圓と云ふ象天是の方象地也。○天小は四行九辨之音
六六自は夫小同而電是なり。○人言亦取共善怒らるる故

陰必雲肺と為亂所の風情の互時を言ひて
天地と相参る也 仁の射則臨の用なり

義

判断裁到則宜之理なり其意は義也

夫小至て一秋小至て利と名づく陰氣は肅敬の道理
肅敬は草木の意と為実と接して万物が生長
事也其道理と人にて是て義と為故小裁判断則そ夜
暖ふと裁する故小道理と宜く是をわんわん也壁は刀
刃の利をさしと義は人の利を一毛も奪ふことありと
云ふも云ふこと事は生る處と死する處と對死故也

物変りして少も其節を違ひざる也義と云ふは○則は
裁也又改也制は節也裁は節也又裁は節也則は制也裁也
は字に節有る也と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
際て是れ小至りて事なりと云ふ事と云ふ事と云ふ事
宜也道徳之心は義之端也是をん非人也彼乃小不若の
事の有と和りと思は道徳也人の不若と見て是れ小至り
惡なり義は体道徳の用なり

禮

恭敬節制則敬は禮共意は恭也 恭は心くまひ 形小至りてと云
敬は心くまひ 形小至りてと云

夫小至て一歳小至りて春と名づく陽氣は長養を為す

道理なり長衣といふ物と云ふことありてあざや小僧の
事ありて道理と人々して禮をばらぬ故小恭敬辭儀を
致し候物と辭儀と禮とありて其著れりてあざといふ
衣冠に下く威儀礼らざると云ふことと怪らぬ人々先きに
已と後より其外より行ふ所何事にも依りて禮をばらぬ
かにも自由を言ふ者先喻する極楽を又いふ淋暗りて後志
あり事ありて禮と云ふこと。恭敬といへりやまふ事
禮也節の法度也格の威抑ありまふことなり。かこつて禮
なり小ありと云ふ言の禮物と云ふやまひなりやまふ事抑て法度と

儀道ゆゑ小ありなり辭儀と云ふ禮と禮也是なり非人也
辭の辭儀と云ふ言はたし今知れ小功の有と人ありて時
氣功小非と云ふ辭儀と云ふ言は推して人小非と云
右の功をたし言は其人の功ありと云て人小あり其非禮なり
禮の辭辭儀の用なり

智 分別を非別別と理なり其教は是非

夫小ありて冬小ありて夏と云はく陽氣は因る事道理なり
因る事小ありて冬小ありて夏と云はく穴ありて故も其物
因る事あり其道理と人々して智をばらぬは是非也

分別多し人ふ是此の大略アヲラシなり其心深く静ま
亂言多し信て其見付る事ありされ各其
地下に保く静まりて書け亂言と云ふこと常く静まる
根に入て物と管あるものも物と向ふ時あるは此
逆するを智と云ふ。○分別なるは是此と分別で
是は是と非と此と是と是此と人智と信也
是此と人非人也若と知ては若と一と為と知ては
悪と信智の体是此の心用なり

信 中央別実有る理なり其後乃忠信

正不正と云此のありて字する智有り云此を信ふ
古用し事ありされは信を以て古用ありと仁義禮智
の道は信不離也但仁義禮智以外は信は道理を以て
わたり仁義禮智は其実ある道理を以て事と云りて
信と信は信と水は冷ふ火の暖ふ此の如く君小
事父母に事あるも其外より行ひん交るるまで
其心其実なり月小私と不徒外小信と事と在る信小
道理の一篇と守り始終愛するは信と云ふ。○實其
心道と行ふ實其心一其心信の道と克一其心極致と

事_ニ究_メし_テ時_ニ出_ルて_ハ其_レ徳_ヲ修_メて_ハ顯_カる_ニ可_キ也
其_レ徳_ハ海_ノ光_ニ耀_ス事_ニ以_テ道_ニ云_フ也_○人_ノ自_ラ
行_フて_ハ父_ノ親_ヲ敬_シて_ハ外_ニ出_テ君_ヲ忠_ニ養_フ也_○
是_レ子_ノ徳_ノ月_ノ父_ノ君_ヲ臣_シて_ハ行_ハる_ニ大_ニ道_ノ理_ヲ
忠_ニ臣_シて_ハ君_ノ事_ヲ云_フ云_フは_ハ是_レ也_○君_ノ明_ニ極_メて_ハ
随_ヒて_ハ上_ニも_テ君_ノ若_シく_ハ進_ハん_ニ可_キ事_ニ也_○君_ノ行_ハ
ふ_ニ道_ノ則_チて_ハ失_ハる_也○君_ノ行_ハふ_ニ道_ノ則_チて_ハ失_ハる_也
を_テ以_テ後_ニ陳_レと_云ふ_也○上_ニも_テ思_ハふ_ニ可_キ事_ニ也_○君_ノ若_シく_ハ進_ハ
ん_ニ可_キ事_ニ也_○君_ノ若_シく_ハ進_ハん_ニ可_キ事_ニ也_○君_ノ若_シく_ハ進_ハん_ニ可_キ事_ニ也

大_ニある_ニ可_キ事_ニ也_○君_ノ若_シく_ハ進_ハん_ニ可_キ事_ニ也_○君_ノ若_シく_ハ進_ハん_ニ可_キ事_ニ也_○君_ノ若_シく_ハ進_ハん_ニ可_キ事_ニ也

五志天地の事と云ふこと明きなる時、靈氣を感してなりと
如く、その靈氣を神明の造化に功用せられ、形を成し、
是る處をいひては其福祐と爲り、四時妖愛を無き
なり。○神明と云ふ造化に功用を指して、その造化は天地
の爲りたる事と云ふ功用は是れ會見する事と云ふ事、
白姓月来る事生し、長長なるは類なり。○天地の事と云ふ
こと、如く、その時、神明の造化に、其類小なる如く、また、
左、如く、その事、人、或は、其、如く、その事、其、
元陽は兒と云ふ、水は流りたる事なり。○人身の陽は

二氣陽と云鬼は陰と云魄は死時、陰陽の教にて
魂は地、その事、其、陰、其、
其、魂、鬼、其、格、其、祀、
陽、二、氣、正、伸、性、其、事、
仰、其、事、其、鬼、陰、の、事、
鬼、氣、と、鬼、氣、と、鬼、と、
父、其、道、其、事、其、地、
天地、其、事、其、乾坤、
其、乾、其、健、其、事、

順之、帝らの招き物降して生ずる所の志あり是乃
天地は天地する由り可く志あり是乃物小父母する志あり人
氣と天小東形と地小賦と蕪迄の身混合して同なりて
中小位天子の造り乾陽坤陰の道天地は氣而同小
寒^ミなり人物は資して心體をもち志あり故小天地は寒^ミなり
體ありと乾と健坤は順是天地は性ありと氣は神也
情と心性なるも亦れ志あり故小天地は神其性と云深と
志と孝をれ、則乾は父坤は母混沌之中居るは氣
見^ルる人物天地は同小養生、其資して心體をもち

皆天地は神なり全體小偏高生に殊あり故小其性
於てなり明暗は柔、惟人也其形氣は心と情と是れ其心
を造りて心性命は全體小通することなり養生は中小於て
同類を養ふことなり故小同胞と云、則其志と云、
不^レ色^ノ見^ル中^ノの如く惟^テ心^ノと同胞の人故小天下^ニ一家^ノ中國^ノ
一人^ノと一國^ノを造り物と別あり形氣は偏と情と性命は
同^ニ小通^スることなり故小我^ノと類^ノと同^ニなりて志と
人の貴小亦^レ其^ノ體性^ノなる由りなり故小亦是^レ亦^レ志と
天地はばばけて、^テ志^ノを^レ造^リて同也故小吾^ノ別^ニ其^ノ志^ノと^テ視^ル也

亦己、脩事、トと云ぬ、凡天地、ノ同、ノ形、ノち、ノあ、ノ若、
 動、ノ若、ノ植、ノ情、ノら、ノ性、ノ分、ノて、ノ其、ノ性、ノ小、ノ以、ノ其、ノ宜、ノ小、
 遠、ノと、ノち、ノる、ノ處、ノと、ノち、ノり、ノ此、ノ儒、ノ云、ノは、ノ道、ノに、ノて、ノ天、ノ地、ノに、
 ま、ノど、ノち、ノる、ノ小、ノ家、ノ也、ノ小、ノ化、ノ育、ノと、ノは、ノ生、ノる、ノ小、ノ道、ノを、ノ後、ノ小、ノ功、ノ用、ノは、
 念、ノと、ノち、ノる、ノあ、ノと、ノ也、ノ外、ノ小、ノ流、ノる、ノ亦、ノ小、ノち、ノる、ノあ、ノと、ノ也、ノ凡、ノち、
 乾、ノを、ノ父、ノ坤、ノを、ノ母、ノと、ノて、ノあ、ノと、ノ也、ノ人、ノ其、ノ中、ノ小、ノ生、ノる、ノ則、ノ凡、ノ天、ノ下、
 此、ノ人、ノ小、ノ皆、ノ天、ノ地、ノれ、ノ子、ノ分、ノり、ノあ、ノと、ノ也、ノ天、ノ地、ノに、ノ継、ノ承、ノけ、ノ人、ノ物、ノと、
 統、ノは、ノ則、ノ大、ノ君、ノの、ノこ、

木

元春、ノ東、ノ小、ノ屬、ノ也、ノ青、ノ龍、ノ也、ノ青、ノ將、ノ軍、ノは、ノ官、ノ殊、ノ也、ノ然、ノ分、ノり、
 人、ノ其、ノ亂、ノる、ノを、ノ情、ノ生、ノる、ノ形、ノ統、ノ統、ノ長、ノ主、ノ仁、ノ帝、ノ親、ノ又、ノ工、ノ他、ノ小、ノ分、ノり、

火

亨、ノ夏、ノ南、ノ小、ノ屬、ノ也、ノ赤、ノ雀、ノ也、ノ紅、ノ君、ノ至、ノは、ノ官、ノ神、ノ明、ノ也、ノ分、ノり、
 人、ノ其、ノ亂、ノる、ノを、ノ情、ノ生、ノる、ノ西、ノと、ノ六、ノ下、ノ調、ノ主、ノ德、ノ明、ノ也、ノ又、ノ西、ノ工、ノ分、ノり、
 甲、ノ子、ノ白、ノ降、ノ騰、ノ蛇、ノ也、ノ黃、ノ中、ノ土、ノ屬、ノ也、ノ則、ノ坤、ノ和、ノを、ノ德、ノ順、ノ柔、ノ分、ノ倉、ノ原、ノは、ノ官、ノ殊、ノ也、ノ分、ノり、
 人、ノ其、ノ亂、ノる、ノを、ノ情、ノ生、ノる、ノ形、ノ統、ノ統、ノ教、ノ孝、ノ也、ノ至、ノは、ノ官、ノ重、ノ寬、ノ博、ノ又、ノ父、ノ衆、ノ小、ノ分、ノり、

五行云

人、ノ其、ノ亂、ノる、ノを、ノ情、ノ生、ノる、ノ形、ノ統、ノ統、ノ教、ノ孝、ノ也、ノ至、ノは、ノ官、ノ重、ノ寬、ノ博、ノ又、ノ父、ノ衆、ノ小、ノ分、ノり、

金

利、ノ秋、ノ西、ノ屬、ノ也、ノ白、ノ虎、ノ也、ノ白、ノ相、ノ傳、ノの、ノ官、ノ治、ノ節、ノ也、ノ分、ノり、
 人、ノ其、ノ亂、ノる、ノを、ノ情、ノ生、ノる、ノ西、ノと、ノ六、ノ下、ノ教、ノ至、ノ尚、ノ義、ノ又、ノ重、ノ兵、ノ權、

水

貞、ノ冬、ノ北、ノ小、ノ屬、ノ也、ノ玄、ノ武、ノ也、ノ魚、ノ作、ノ治、ノの、ノ官、ノ伎、ノ巧、ノ也、ノ分、ノり、
 人、ノ其、ノ亂、ノる、ノを、ノ情、ノ生、ノる、ノ眉、ノ震、ノ分、ノり、ノ又、ノ大、ノ寬、ノ小、ノ也、ノ又、ノ聰、ノ巧、ノ小、ノ分、ノり、

肝

肝は脈を所出也
肝竅と目小同くあり

目肝小屬目和黒白とあり也
眉肝小屬木氣とあり也

春仁屬

心

心腸を脈所出君之也
心竅と舌小同くあり

舌心小屬火氣とあり也
髮心小屬火氣とあり也

夏禮小

五臟腑

脾は胃を脈を所出
脾竅と口小同くあり

口脾小屬土氣和則穀味とあり也
中気信小

肺

肺は膈を脈を所出
肺竅と鼻小同くあり

鼻肺小屬金氣和則香臭とあり也
毛肺小屬金氣とあり也

秋義小

腎

腎は膀胱を脈を所出
腎竅と耳小同くあり

耳腎小屬水氣和則音とあり也
顔腎小屬水氣とあり也

冬象小

書法式

一 筆法此書に上扱は千字と書し中扱は百字と書し
筆は音字と多し之を極小と一字と書くなり
是も千字と書し極小と書くなり

一 取扱は白真の言はく行の細くふとく筆は
一と一と書し其の行は二体真と書し一と一と行は
肉と一と書し其の行は皮と書し一と一と行は

一 視のやうに書しよくなり視のやうに書しよくなり
一 墨の厚しは任横は紙の厚し包は墨の厚し

蘭の毛紙を紙にすりこぎて無垢をうへて湯の湯を流し
膠を塗て干して用ひる

一 筆は紙に敷き置き冬は湯を流し筆を湯
洗ひて用ひる

一 紙をうへて墨を付く白紙を墨を指して書る
紙は令宿塗物などの上書り墨を付く紙は
粉を墨を付く書る

一 石又木小物と書付て後の世までまぬ法あり
原と墨を付く書る

飛いざりの物と柔ふ小なる物あり
此の理あり飛の原は多くもふくまの也
折衷の上ふれた後と足まれの已り
よみなり又ふりて自然汁太刀子
空海原の事あり事あり原の事あり
書法あり流や小書事たり
筆道と強し筆をうへて入
女人と書と修まるまが
筆の法何より

何ふ終事と看体法度一ふ其處小廣して宿佛
うて是と名ることとせよ此初事既小く事とくま
る一書と名の因まゝ別事と似ん事と求るとあり
且此瀾客與うて且今以且とるに神遊の意今を
る一書と名の因まゝ別事と似ん事と求るとあり
法より字と終事一人の脈と終事一と一月より十月小く
先旺廓とる後形体とゆるに支百竅一内とく具
今日一日と終し明日一日とゆる小く亦其書を恐る画
是と求るとる事跡を以て文字陰形と画く事と初此

意とくく人いまは情とるものなり

一古人書し墨と有り事其画やん事を終りに遊ぶるの終
允けたりする名とる一後世に先と後とん事と終り共
香らん事と終り其終らん事と終り故小遊作百端換合玉
伴一其末小終り其末とるなり

一墨高く凍れ膠の黏をて字は先と後とを初終
膠は黏なりて筆毫滑る事なり唯二十五年の後
取合やて用ひぬ

一書小くてもやと書換とるの實は書換ありやとあり

一 書體親王の書體は之を親の書體也今此人等書體と云ふは
懐素又二麻元意等の筆は少くして相創して之其法
失ふに愛法と云ひける實の書體は筆一昔より二五に筆法
廿一等の其法は中一之故小を之書と云

一 或人書法海を初めは國は書と云ふ事云國親王は書
ふせりとも書と云ふ事云初めは國は書と云ふ事云初めは國
初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ事云初めは國
筆法は遠く書法は筆と書法と云ふ事云初めは國は書と云ふ
事云初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ事云初めは國

一 此國は筆法と云ふは全履は孔後より之書ては國は
何の漢人の初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ事
人云書と云ふ事云初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ

一 此は人が邦の二白人の書と觀て曰ふは二王は初めは中
書の筆書と云ふ事云初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ
は國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ

一 隋書云代乃同隋書云隸書と云隸書云秦隸漢隸隸書
初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ
書云初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ事云初めは國は書と云ふ

漢の初、中絶せしと云次仲古法と謂て修作せし、
又遠く後漢小篆を茶色点画と指して永字八法と
稱し、隸として隸の書法とは附小定むとて程邈の隸書
全形を隸、秦小篆之を漢小篆と茶色小篆と云漢隸
と指す書之号、曾法指して秦漢といふ隸は古今の
別として武法と云邈の隸の真意故小指書之亦真之
也書之ふり

一 晋の書、白谷と傳へ、秦は王次仲なり、古今法書、元云
小篆教して八分生を八分取て隸書出、王次仲字體

勢ハ八分小篆、月、也、小八分、云

一行書、晋の書、集、云、此書と傳へ、後漢、顔延之、劉涪、界
なり、曠、西書に傳へ替て、簡易、小從て、亦、此、書、流、行、也、
亦、此、書、云

一章、竹、の、書、云、漢、は、黄、令、史、游、が、傳、り、亦、なり、亦、か、に、云、け、
文字、の、書、か、り、て、子、づ、小、る、と、書、る、文字、も、く、ん、ん、
ひ、ま、に、文字、は、り、る、中、は、法、と、用、ふ、る、か、り、て、向、の、人、と
ひ、合、し、書、ふ、り

一 漢、の、字、と、ぬ、法、と、書、換、へ、る、因、り、書、と、史、陽、小、漢、と、云、り、

漢字より字とする處ははるかに多しかりて書すにても也
但し其れは造りくち指を常りて後する處一
一字と書換へたるは秘傳書損ひる内は六根と云ひ
ふるゝとありはふるゝ六根と書しとする處一
悉くあつたり其後まゝと云ふとする處一